

自動運転バスの縁石との接触事故の調査結果及び運行再開について

5 月 13 日（水）、小松駅・小松空港間での自動運転バスの運行中（レベル 2 での自動走行中）に、小松駅西口バスロータリー内で車両左前方外装部が縁石に接触した事故について、次のとおり報告いたします。

1. 発生日時 令和 8 年 5 月 13 日（水）11 時 31 分（11 時 20 分 空港発便）

2. 発生場所 小松駅西口広場（小松駅西口バスロータリー）

3. 発生時の状況

当該車両は、小松空港から小松駅に向かうバスであり、レベル 2（運転操作の主体は運転者で、アクセル、ブレーキ操作及びハンドル操作の両方が部分的に自動化）での自動走行中に、駅西口バスロータリーにおいて、車両左前方外装部が縁石に接触しました。

4. 被害の状況

- ・けが人なし。当該便に乗客はおらず、運転士にも怪我はありません。
- ・周辺の歩行者及び他車両等周囲への被害はありません。
- ・車両の外装の一部に擦り傷が発生しています。
- ・縁石に擦過痕が生じております。

5. 事故後の対応

事故発生後、直ちに手動操作にて停車させ、危険防止のための必要な対応を行うとともに、警察への通報を行っております。また、該当便以降、当該車両での運行を中止し、代替車両にて運行を行っております。

調査・検証として、車両に記録されたログデータの解析及び、ハンドルからタイヤに至るまでの操舵に関する各種機器の点検を行いました。また、バス会社の車両基地構内（5 月 21 日～26 日）及び、事故現場である小松駅西口バスロータリーで再現実験（6 月 10 日～12 日）を実施しました。

※再現実験では、事故時と同様の事象は発生せず。

6. 調査結果

- ・自動運転システムが指示したステアリングの角度に対して、実際のステアリング角度が追従しない「乖離」が発生し、大回りの旋回となったことが縁石との接触につながっていました。
- ・乖離が発生した原因として、自動運転システム及び手動運転時のステアリング操作に関わる機器には不具合は確認されず、自動運転時のみ使用する操舵システムで不具合が発生したものと判断されました。

7. 再発防止策

- (1) 不具合が発生したと判断される自動運転時のみ使用する操舵システム一式を新品に交換します。
- (2) 次の新たな安全機能を追加します。
 - ・自動運転システムが指示したステアリング角度と、実際に切られたステアリング角度の乖離幅を検知し、一定値を超えた場合に自動で速やかに減速かつ安全に停車させる自己診断監視機能
 - ・操舵のずれ等が生じた場合でも設定ラインから車両が逸脱しないようシステム側で軌道を制御・停止させる機能

8. 運行の再開

対策を実施した上で、試験走行により自動運転に関連する機器等に問題がなく安全運行ができることが確認できたため、次のとおり自動運転バス車両での運行を再開します。

- ・7月29日（水）から、自動運転バス車両による手動運転での営業運行を再開します。
- ・8月4日（火）から、自動運転での営業運行を再開します。

9. 本件に関するお問い合わせ先

小松市総合政策部地域交通政策室 TEL 0761-24-8396